

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1486号 1999年03月15日(月)

## 《 compassionate conservatism 》

やや時期尚早の段階ですが、エリザベス・ドール女史が次期米大統領選挙出馬への本格的な準備に入ったことから、2000年の米大統領選挙は俄然興味深いものになってきました。「初の女性大統領の登場なるかどうか」という点がまずは興味の対象となりますが、「強いアメリカ」、「荒々しい弱肉強食の資本主義の国」というレーガン以来のアメリカの基本的な政策やイメージは、この2000年の大統領選挙を契機に大きく方向転換をしてくる可能性がある。

今のところ民主党はゴア副大統領（インターネット上のオフィシャル・サイトは <http://www.gore2000.com/>）以外には有力な政治家の出馬見通しはなく、関心の対象は共和党の大統領候補が誰になるかに絞られている。先週は二人の有力な候補者が大統領選挙に向けた予備委員会（Exploratory Committee）の開設を行った。一人はジョージ・ブッシュ・テキサス州知事（同 <http://www.georgewbush.com/>）であり、もう一人はブッシュ政権下で労働長官を務めたエリザベス・ドール女史（同、<http://www.edole2000.org/>）

ジョージ・W・ブッシュはよく知られているように、第41代アメリカ大統領ジョージ・ブッシュの6人の子供（一人は死亡）の長男で、1946年7月6日生まれ。エール大学を出てハーバードでMBAを取り、F-102のパイロット、ミッドランドでの石油・ガス事業での成功、1988年には父親の選挙戦支援、1989年にはテキサス・レンジャーズ買収・GM就任、1994年11月8日テキサス州知事当選、1998年再選という足取り。自ら完璧なスペイン語をしゃべり、再選選挙でも得票率でヒスパニック票の49%、黒人票の27%、民主投票の27%、女性票の65%を獲得、知事の再選としては「歴史的勝利」と言われた。

大統領候補としての彼をもっとも端的に表す言葉は、「compassionate」である。選挙戦予備委員会（支持の程度や資金の集まり具合を調査する）発足に当たっての1200単語弱の短いスピーチ（3月7日）の中に、この「compassionate」という単語が7回も出てきている。例えば、

「 I've described myself as a compassionate conservative, because I am convinced a conservative philosophy is a compassionate philosophy that frees

individuals to achieve their highest potential. It is conservative to cut taxes and compassionate to give people more money to spend. It is conservative to insist upon local control of schools and high standards and results; it is compassionate to make sure every child learns to read and no one is left behind. It is conservative to reform the welfare system by insisting on work; it's compassionate to free people from dependency on government. It is conservative to reform the juvenile justice code to insist on consequences for bad behavior; it is compassionate to recognize that discipline and love go hand in hand. 」

といった具合である。では、「compassionate」とはどういうことか。辞書を引くと、「哀れみ深い」「情け深い」「同情ある」という意味だと書いてある。もっと具体的にはどうか。ブッシュの予備委員会開設に当たってのインターネット・サイト（3月2日立ち上げ）にはこう書いてある。

「I have a compelling reason to consider running for President. I want the 21st century to be prosperous, and I don't want anybody to be left behind. America must be prosperous and strong to make sure the next century is a peaceful one.

America must be prosperous so that anybody who wants to work can find a high quality, high paying job. America must be prosperous so that people can realize their entrepreneurial dreams. America must be open so that every citizen knows the promise of America. America must be educated so that all our citizens can realize the American dream.」

端的に言えば、「落ちこぼれなき」（彼の表現を借りれば no one is left behind.）という

ことである。「落ちこぼれなき繁栄」「落ちこぼれなき教育」「落ちこぼれなき職の確保」など何でも良い。これは考えようによっては伝統的な共和党のバリューから言えば、かなり民主党寄りの、ヨーロッパの社会民主主義的な考え方である。あまりにもこのイメージが強いが故に、ブッシュは設立委員会のスピーチの中で、

「 I base decisions on a set of core, conservative principles from which I will not waver. I believe government should be limited, that government should focus on a few priorities and do them well. I know the role of government is not to create wealth, but to foster an environment in which our small businesses and entrepreneurs can flourish.

I believe in local control of our counties, cities and schools. I know Texans can run Texas, and that states must be free to enact innovative and constructive reforms. I believe all public policy should encourage strong families and I believe in personal responsibility. 」

と述べて、「連邦政府の役割（予算）限定、起業環境の整備、地方自治」などを強調して「基本的な考え方は保守」である点を宣伝せざるをえない状況に追い込まれている。しかし、例えば abortion（墮胎）では「pro-choice」（賛成派）であり、伝統的な共和党支持者からは異端と見られている。しかしブッシュとしては「compassionate conservatism」（同情あふれる保守主義）を前面に打ち出して、アメリカで黒人票をはるかに上回ったヒスパニック票や女性票を獲得したい意向。よく報じられているように、自らの弟がフロリダ州知事で、テキサス、フロリダと南部の大きな票田を抑えているのが強みである。

ブッシュが掲げる「compassionate conservatism」（同情あふれる保守主義）が例えば基本的な財政政策の方針にどのような影響を与え、金利や為替にどう響いてくるかはまだ不明である。しかし、「compassionate」という単語から想像される政府は、今までよりは大きなものになる可能性がある。

### 〈 feminization of politics 〉

エリザベス・ドールは1936年生まれ。従ってジョージ・ブッシュよりは10才年上ということになる。デューク大学政治学部卒業。ミス・デュークだったという。今見てもなかなかの美人である。その後、ハーバード大学の大学院で法律を勉強。1975年に口

パート・ドールを結婚している。ワシントンで長く活躍してきているので、「政治家」と思われがちだが選挙の洗礼を受けたことはなく、言ってみれば行政官である。レーガン政権下では運輸長官に就任、ブッシュ政権下では労働長官を務めた。

彼女は、ブッシュに遅れること数日で「予備委員会」を発足させた。しかし急ごしらえだったようで、彼女の「予備委員会ホームページ」を見ても、いったい大統領になって何をしたいのかははっきり分からない。アメリカの新聞論評の中には、「一体彼女は何のために立つのか不明」というものがある。これはドール女史がこれから選挙戦を形作っている中で一番大きな仕事になるだろう。ただ「女性」というだけでは、やはり一国のトップには難しい。サッチャーは良い意味でも悪い意味でも「哲学」を持っていたし、「Iron Lady」の異名まで取った。

しかし、今までの言動や支持層から見て、ブッシュよりはるかに伝統的な共和党の立場に近い人だと見られている。Abortion に関しても「pro-life」(反対派)であり、一定の条件下(母体の健康維持、レープなど)でしか認めるべきではないという立場である。しかし、それでも彼女が注目されるのは「first serious female presidential candidate」(最初の、そして本当に大統領になる可能性のある候補者)だということである。運輸長官、労働長官としての行政官の手腕は高く評価されている。外交哲学などは不明だが、「彼女なら大統領にしても」というムードがワシントンにも、米マスコミにもある。

彼女自身が予備委員会設立のスピーチで言っているが、「どこに行っても大人気」のようで、彼女のスピーチ会場は人で溢れているという。人気があるのだ。これが続けば、選挙は勢いのようなものがあるから、大きな力になる。

ドール女史が有力な大統領候補に上がってきたことばかりでなく、ブッシュが「compassionate conservatism」(同情あふれる保守主義)を唱える中で、今アメリカの政治の大きな潮流を表す言葉として登場してきたのが、「feminization of politics」である。そのまま訳せば、「政治の女性化」。

ニューヨーク・タイムズはこの「feminization of politics」を、「女性が重要であると考えられる問題をより重視する政治態度」と一応の定義を与えている。軍事費を増やすよりは福祉を考え、過酷な競争よりは「compassionate」な社会制度を考えるといったスタンスである。そこでは環境が重要だし、家族が重視される。

これは具体的な政策レベルでどうなるかは別として、レーガンの時代から見れば考え方としては大きな変化である。この背景には、1996年、1998年の二回の選挙で、レーガンの伝統を引き継いだ政策を掲げた共和党が勝てなかったことに関係している。今やアメリカの有権者の51%は女性であり、働く女性が増えてきた中では、女性が重要だと考える問題にどう取り組むかが極めて重要になってきているのである。不倫疑惑でクリントンを責めに責めた共和党は、女性自身があまりクリントンに批判的にならないなかで、結局選挙民の支持が離反したことを発見した。

ドール女史が興味深い立場にいると思うのは、考え方は保守本流に近くても、彼女自身が女性で、こうしたアメリカ政治の「feminization of politics」の恩恵を受けやすいということである。

こうしたアメリカの政治の大きな潮流が今後さらにどのような形で進むのかは、すこぶる興味深い。何と云ってもアメリカは世界における資本主義のメッカであり、また GDP で見ても経済規模は一番大きいし、活力も一番ある。その国の行方は、世界経済に大きな影響を与える。

### 《 rate hike in U.S. ? 》

今週の主な予定は以下の通りです。

15日(月曜日)	1月の国際収支
16日(火曜日)	3月の月例経済報告 2月の日銀発表によるマネー・サプライ 3月の日銀発表による金融経済月報 速水日銀総裁記者会見 2月の米鉱工業生産・設備稼働率 2月の住宅着工件数
17日(木曜日)	99年度予算案成立の見込み 金融政策決定会合議事録要旨公開 (2月12日分)
18日(木曜日)	2月の日本の貿易統計(大蔵省) ヨーロッパ中央銀行(ECB)理事会 2月の消費者物価指数
19日(金曜日)	1月の米貿易収支 2月の米財政収支

予定の多い一週間です。16日に発表になる月例経済報告は、日本の景気の現状に関して、どのような表現になるかが注目される。既に「こうなるだろう」という見通しは先週末の新聞に出ていて、その通りになるかどうか。ヨーロッパでは、利下げがあるかどうかのポイント。ラフォンテーヌ・ドイツ蔵相が辞任したことから、逆に「利下げ圧力」が緩和し ECB 理事会が利下げしても圧力に屈したのではないという形になって、利下げはしやすくなると考える。

予定にはないが、世界的な株高の行方も注目である。ニューヨークではダウで1万ドルが目前に迫っており、金曜日は小幅反落したが依然として最高値圏にある。引き続き、エコノミストやプロのファンド・マネージャーが警戒的なものに対して、最終投資家の資金が株式市場に潤沢に流れ込んできているのが市場の特徴で、これは状況としては日本の19

88年に良く似ている。

むろん経済の形や個々の企業の体力などは、今のアメリカの方がかなり健全である。これはグリーンズパン FRB 議長が指摘する通り。しかし、だからといってここ数年のアメリカの株価上げペースが正当化されるわけではない。先週ダウが史上最高値に上がる段階で、「この市場には momentum しかない」と指摘していたアナリストは多かった。PER などのバリュエーションから見ても、今のニューヨーク市場は過去に前例のない領域に踏み込んでいる。経済活動のアセットに依存する割合（日本では土地の値上がりも大きく、これによる経済活動への影響も大だった）は当時の日本より低いものの、株価の水準が警戒すべき水準であることに変わりはない。

筆者は、政治問題になるために決してそれを前面に打ち出すことはなくても、連邦準備制度理事会（FRB）はアメリカにおける資産価格の野放図な上げを抑制する目的をもって FF 金利誘導目標の 0.25% 引き上げに動き、市場の熱気を沈静化させるような事態も考えられると見ている。これは繰り返し述べているが、昨年 11 月 17 日に去年の秋としては 3 回目の利下げをした時の FRB の判断は明らかにアメリカ経済の先行きに関して、悲観的に過ぎた。「かなり鈍化する」という判断でだったが、アメリカ経済は鈍化もせずここまで来ている。

FRB が景気の先行きに関して予測を間違った背景としては、ロング・ターム・クレジット・マネジメント（LTCM）の危機が、人的に見ても（LTCM にはグリーンズパン議長や FRB 高官の友人が何人もいた）、距離的に見ても、そしてその性格（LTCM の直面した危機が今までにあまり前例のない金融スキームから生じた）から見ても、FRB があまりに身近で起きたが故に「警戒的になり過ぎた」ことが指摘できる。グリーンズパン議長は明らかに 11 月 17 日の 3 回シリーズ最後の利下げを後悔している筈であり、その分を取り戻す利上げをしてきても不思議ではないと考える。

### 〈 have a nice week 〉

週末はいかがでしたか。ちょっと寒かったのですが、日差しは徐々に強くなってきている。久しぶりにコンペで野原を歩きましたが、かなり陽に焼けました。ディーリング部門の若手中心の。うまいのかなと思うと、次のホールではとんでもない崩れ方をする。参加した大部分の若手メンバーについては、「発展途上」(^o^o) という表現が当たっているかもしれない。私も他人のことは言えませんが。

ところで、ハリウッドのどうしようもない類型化された映画（最近はこの「類型化」が特にひどい）に辟易していたのですが、一つ良い映画を見ました。やはり映画は宣伝でもなんでもなく、その道に詳しい友人に聞いて行くのが一番確実です。

題名は「セントラル・ステーション」。ブラジルの映画で原題はポルトガル語ですから、日本語の訳の題名しか知りません。リオデジャネイロのたぶん中央駅（映画の題名から類

推しただけです)。そこで代書屋(字が書けない人のために、手紙を代わりに書く職業)で生活する初老の女性。そして母親を駅近くのバス事故で失って、父親探しに出る子供(男の子)。

ブラジルの厳しい現実と、その中でも徐々に気持ちを通じあわせていく二人が非常にうまく描かれている。ちょっと「ニュー・シネマ・パラダイス」に感じが似ている。子供と老人という設定において。落ち着いた、良い映画です。恵比寿ガーデン・プレースの三越隣の映画館で上映中。結構人気があるようです。

舞台ものでは、生まれて初めて見た「京劇」も良かった。中国から来た「大連京劇団」の「中華人民共和国建国五十周年記念講演」。池袋のサンシャイン劇場で。助かったのは、新宿のオペラハウスと同じで舞台の両側に台詞が日本語に訳されて示されるのです。劇の進行に併せて。それがあから、「ああ、今はこういう状況か」と分かる。司馬さんの本に昔「項羽と劉邦」というのがあって、非常に面白かった記憶があるのですが、時代はまさにその時です。主役は項羽、劉邦の二人と項羽の寵愛を受ける虞美人。

役者の足の運び、使われる楽器の多様さ、そして独特のあの発声法。まあ機会があったらもうちょっと調べて見たいと思いました。この「京劇」は、西洋のオペラ、日本の各種の舞踊に大きな影響を与えているに違いない。「霸王別姫」という演目は、もう何年くらい前になりますか、映画で見た「さらば我が愛・霸王別姫」と同じです。この映画も良かった。この映画を見たあと香港から中国に入ったとき、中国のツアー・コンダクター(どこかの大学の学生でした)と「霸王別姫」の話で盛り上がったことを思い出しました。中国のインテレクチュアルな人は、この映画を全員が見たと彼女は言っていました。ただし、「京劇・霸王別姫」は14日に終わってしまった。

「セントラル・ステーション」はまだしばらく上映されているでしょう。それでは皆様には、良い一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤(03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com)が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》